

運搬ノ方法

薪炭消費高

記事堅坑横坑通氣坑運搬坑等開鑿ノ目的方法及之レカ爲メ要ス
ル處ノ機械卷揚機等ノ建築及其使用ノ方法ヲ詳記スヘシ

採鑛ノ部

工程

採鑛額

内譯

何貫目

何立方尺

何鑛

同

最低含有高百分中何々

何鑛

同

同

工數

坑夫

延人員何人

實人員何人

手子

同

同

支柱夫

同

同

車夫

同

同

火夫

同

同

機械夫

同

同

雜夫

同

同

運搬夫

同

同

計

同

同

原動機

遠鐘或ハ水車

何式

何馬力

何臺

機關

同

同

同

機械

同

同

同

通氣ノ方法

一分時間何立方尺

燒燃費瓦斯ノ有無

排水ノ方法

一分時間何立方尺

運搬ノ方法

薪炭消費高

記事採掘ノ方法及ヒ之レカ爲メ要スル處ノ機械並ニ其建築及使
用法ヲ詳記スヘシ

右之通施業致度候間認可相成度候也

右

明治二十五年三月 日

鑛業人 氏名印

又ハ共同鑛業人總代氏名印

何鑛山監督署長氏名殿

第四號鑛業條例第三十九條届書(正副三通)

鑛區位置	
大字	府縣廳
小字	國
	郡
	村
販數	
品	鑛

鑛業人	施業案認可番號	許可番號	許可年月日	鑛區坪數	鑛山名稱
(何某印)					鑛種
賣代量					
製	品	鑛	品	製	計
	計				

計 合		高 入 買		高	
		計		計	

額 總 計	稅 業 計	稅 業 計	業 工 數		行 日 數	
			製 煉	採 掘	製 煉	採 掘

表 細 明 業 績					
掘 採	高 製 品			越 鑛	
					計

高 製 品		殘 鑛		價 品	
	計			計	

鑛業警察規則(明治廿五年三月十六日)
農商務省令第七號

第一條 鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑内ノ奥部ニ於テ連續シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但同時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山ト雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ設ケシムルコトアルヘシ

第二條 堅坑ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ卷揚堅坑中人音ノ達セサル場所ニハ通信機ヲ設クヘシ

第三條 卷揚臺ヲ用キテ人ヲ昇降セシムル堅坑ニハ板圍アル堅牢ノ梯子道ヲ設クヘシ

第四條 堅坑内ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以内トシ少クトモ三十尺毎ニ踏棚ヲ設クヘシ

第五條 採鑛場ノ外總テ丸木梯子ヲ用ユルコトヲ得ス

第六條 人ヲ昇降セシムル卷揚臺ニハ安全機及上蓋ヲ備フヘシ前項ノ卷揚臺ニ用キル繩網ハ少クトモ重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ

要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 坑内自轉車道及ヒ機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ幅三尺以上ノ人道ヲ設クヘシ

前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ少クトモ距離二

間毎ニ避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ
避害所ハ幅六尺奥行軌道ヨリ六尺以上タルヘシ

第八條 堅坑ノ上下周圍ニ於ケル交通運搬ノ用ニ供スル坑道ハ堅坑ヨリ六尺以上ノ距離ヲ置クヘシ
交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上タルヘシ

第九條 金屬山ニ於テ一分時間少クトモ鑛夫一人ニ付五十立方尺牛馬一頭ニ付二百五十立方尺ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ

石炭坑ニ於テハ前項通氣量ヲ二倍以上ニ増加スヘシ

第十條 破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ之ヲ安全ノ度ニ稀薄ナラシムルマテ通氣量ヲ増給スヘシ

前項ノ石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ巡視セシムヘシ若シ危險ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス

第十一條 新空氣ノ送入ニ付テハ其送入口ヨリ最遠ノ工場ニ直送シタル後分岐シテ他ノ工場ヲ周流スルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十二條 安全燈ハ鑛夫ノ入坑毎ニ破損其他危險ノ虞ナキヤ否ヤヲ検査シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス
鑛夫ハ安全燈ヲ開クコトヲ得ス

第十三條 安全燈ヲ用キル坑内ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ携帯スルコトヲ得ス

第十四條 鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス
使用ノ後殘餘アルトキハ出坑ノ節坑口ニ於テ還付セシムヘシ

第十五條 裝藥ノ際鐵製込棒ヲ使用スルコトヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ外使用スルコトヲ得ス
導火線ニ點火スルモ破裂セサルトキハ點火後少クトモ十五分間ハ

同場所ニ近寄ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ其破裂藥ハ之ヲ掘出スコトヲ得ス
第十六條 同一鑛区内ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ探掘ノ許可ヲ得タル鑛物ノ鑛脈交叉スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利

ヲ損セサル様協議ノ上試掘又ハ探掘スヘシ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ノ指定スルトコロニ依ルヘシ

第十七條 試掘ノ認可若クハ探掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢

業シタルトキハ危險ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ様修理スヘシ

第十八條 鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫

防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十九條 農商務省鑛山局員及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ臨視シ若クハ

鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ査閲スルコトヲ得

第二十條 鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄

鑛山監督署ニ其事由ヲ届出ツヘシ

第二十一條 鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第

七十二條ノ救恤規則ハ鑛夫ノ視易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第二十二條 本則ニ違反シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第二十三條 本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモ

ノハ明治二十五年九月三十日迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所

轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ

前項ノ期限ハ本則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十四條 本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

鑛業ニ關スル手数料(明治二十五年三月十四日勅令第二十六號)

第一條 鑛業ニ關シ次ニ掲ケタル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 試掘認可願 一件毎ニ金參圓
- 一 試掘地訂正願 一件毎ニ金壹圓
- 一 試掘延期願 一件毎ニ金壹圓
- 一 採掘特許願 一件毎ニ金拾五圓
- 一 鑛區訂正願 一件毎ニ金五圓
- 一 鑛業特許證書換願 一件毎ニ金五圓

- 一 採掘權書入登錄願 一件毎ニ金參圓
 - 一 鑛區ノ合併若クハ分割願 一件毎ニ金五圓
 - 一 鑛業特許證再下渡願 一件毎ニ金壹圓
 - 一 坑内實測圖證明請求 一件毎ニ金五圓
 - 一 測量認可請求 一件毎ニ金壹圓
 - 一 鑛山監督署長ノ判定請求 一件毎ニ金五圓
 - 一 農商務大臣ノ裁定請求 一件毎ニ金拾圓
- 第二條 鑛業條例第九十條ニ依リ明治二十六年五月三十一日迄ニ採掘ノ特許ヲ出願スル者ハ手数料金五圓ヲ納ムヘシ
- 第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ
- 第四條 本令ハ明治廿五年六月一日ヨリ施行ス明治二十三年勅令第百五十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●農商務省訓令第四號 (明治廿五年三月十六日)

鑛業條例實施以前ニ提出シタル左記ノ出願ニ就テハ同條例實施後ニ至ルモ尙ホ從前ノ手續ニ依リ調査ノ上本大臣ニ上申スヘシ

- 一 試掘及借區願
- 一 試掘又ハ借區ノ増減區願
- 一 試掘延期願
- 一 試掘又ハ借區ノ相續讓受渡及加除名願
- 一 試掘又ハ借區許可取消願

●農商務省告示第四號 (明治廿五年三月十六日)

鑛業條例施行細則第十條ノ鑛物標品ハ方一寸以上三寸以下ノモノヲ箱詰トシ箱ノ内外ニ採取地名出願年月日及願人ノ氏名ヲ明記シテ差出スヘシ

但鑛物流動體ナルトキハ三勺以上一合以下ヲ同様ノ封裝ニテ差出

●農商務省告示第五號（明治廿五年三月十六日）

鑛業條例第三十一條ニ據リ差出スヘキ坑内實測圖ハ坑道ノ延長夥多ナル鑛區ニ在リテハ初度ノ分ニ限リ第三號錐形ニ從ヒ鑛區ノ全部ヲ千二百分一ニ調製差出シ爾後追補ニ係ル分ハ同錐形ニ準シ増加ノ坑道ノミヲ記載シ差出スモ妨ケナシ此場合ニ於テハ前キニ差出シ置キタル圖面ト接續ノ關係ヲ明瞭ニ記スルコトヲ要ス

●農商務省令第九號（明治二十五年四月六日）

鑛業條例第十四條第三十一條第四項及第四十五條ニ依リ旅費日當ヲ納付スル手續左ノ通相定ム

第一條 鑛業條例第十四條第一項第三十一條第四項及第四十五條第一項ニ依リ吏員ノ出張ヲ命シタルハ鑛山監督署長ハ出張吏員ノ氏名及ヒ旅費日當ノ概算額ヲ出願人又ハ鑛業人ニ通知スヘシ

第二條 出願人又ハ鑛業人ハ前條ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ旅費日當ノ概算額ヲ出張吏員ニ交附スヘシ

第三條 出張吏員ハ實地臨檢ヲ終ヘタル後旅費日當ノ精算ヲナシ過不足アルハ鑛山監督署長ヨリ之ヲ出願人又ハ鑛業人ニ通知シ出張吏員ヲシテ超過額ヲ返附シ又ハ不足額ヲ追求セシムヘシ

●農商務省訓令第七號（明治二十五年四月五日） 鑛山監督署
試掘若クハ採掘ノ出願御料地若クハ官有地ニ係ルトキハ主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

砂鑛採取出願手續（明治二十五年六月二十三日）
農商務省令第十二號

第一條 明治十二年工部省布達第十四號ニ依ル砂鑛採取願書及圖面ハ自今所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

第二條 前條ニ依リ出願ヲナシタル者ハ三日以内ニ願書及圖面ノ寫ヲ添ヘ採取地ノ地方長官ニ届出スヘシ

地方長官採取ノ事業公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ届書ヲ受
ケタル日ヨリ三十日以内ニ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ

八十

附 鑛山法規全書畢

明治廿五年八月三十日印刷
明治廿五年八月三十日出版

編纂者
發行者

石原友曉

東京本郷區臺町五十
一番地寄留

行政裁判例編輯所

同日本橋區金吹町
四番地

山田虎雄

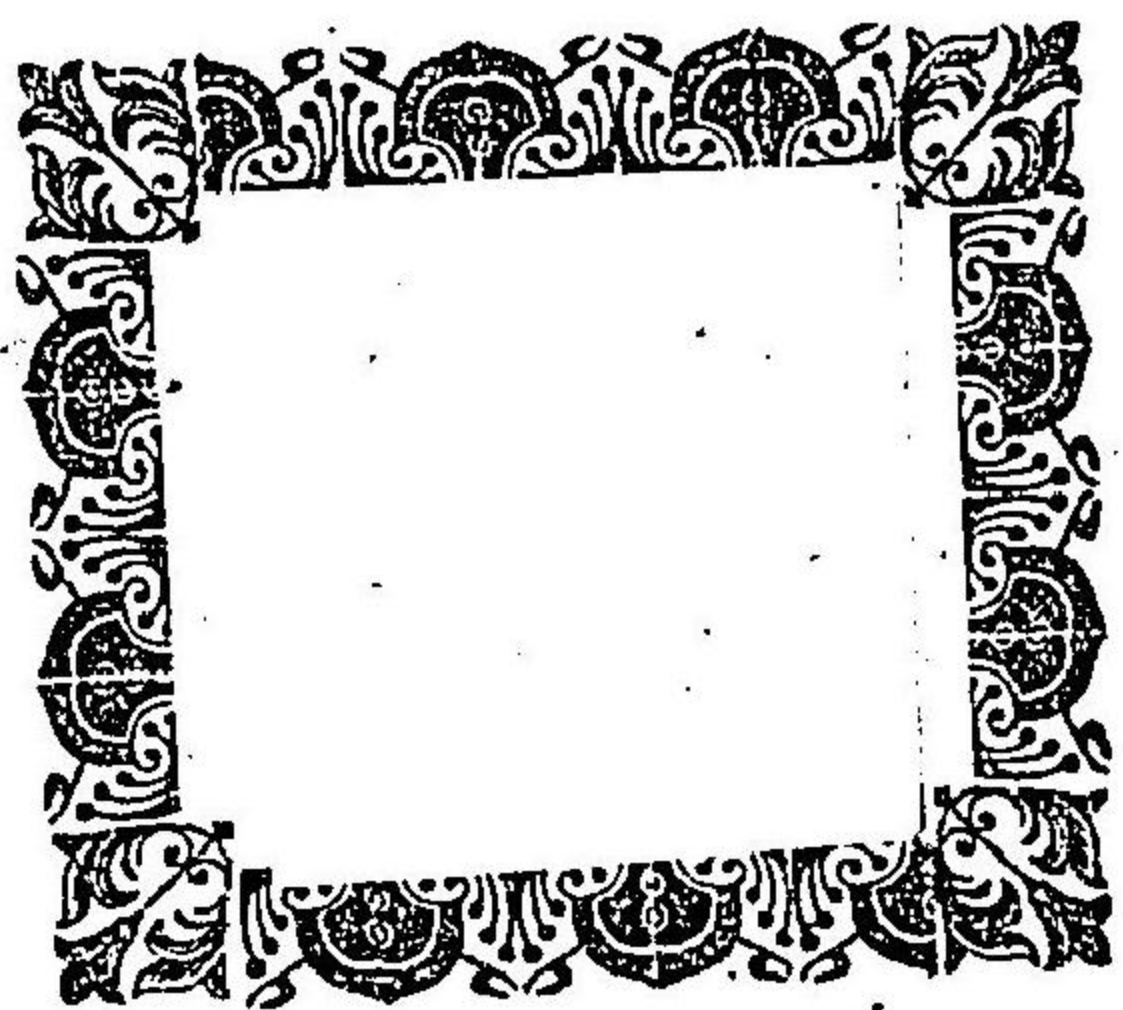
同京橋區加賀町十四番地

明法堂

同神田區裏神保町七番地

丸善商社書店

同日本橋區通三町目



發行所

印刷者

發賣元

同

定價金貳拾八錢

新瀧市古通町六番町
 同後長岡町表町
 越後長岡町表町
 信濃市常盤町
 甲府市柳町
 同岡市橋通
 盛岡市引地町
 長崎市酒屋町
 同賀市白山町
 佐賀市末廣町
 函館市米町
 青森市國分町
 仙臺市大町
 同前市土手町
 弘前市宮池上町
 宇都宮市根天通
 江州彦根町
 橫濱市辨屋町
 濱松町

林 櫻 目 西 内 柳 東 鶴 安 河 魁 成 高 木 野 手 新 丸 谷
 井 黑 澤 藤 正 野 中 内 藤 村 崎 塚 屋 島
 富 彦 喜 堂 北 半 文 田 久 口 書 源 三
 吉 作 郎 店 店 堂 造 郎 平 堂 泰 助 店 衛 店 堂 郎

●再板ノ廣告

石原友曉編著

●適條 日本行政裁判例

附裁判法訴願法要論

◎目 録

○第一類地方制度 ●第一部公民權 ●第二部議員撰舉 ●第三部會議々決 ●第四部懲戒處分 ●第五部町村吏員及職員ノ職務 ●第二類租稅 ●第一部租稅賦課 ●第二部租稅免除 ●第三部公賣處分 ●第四部地價修正 ●第三類土地 ●第一部官民有地 ●第二部海產營業 ●第三部諸營業 ●第四類土木起業 ●第五類營業許否 ●第一部坑業 ●第二部海

◎附錄目錄

○第一章總論 ○第二章訴訟及訴願事件 ○第三章訴願及訴訟ノ提起 ○第四章管轄 ○第五章當事者關係人 ○第六章訴訟及訴願手續 ○第七章審廷 ○第八章判決裁決及其效果 ○第九章權限爭議

本書ハ明治廿三年行政裁判所開廳以來昨廿四年中ニ係ル該廳ノ判決實例ヲ網羅シ之

定價金貳拾八錢

郵税金四

既

刊 錢

テ彙類區分シ且毎件參看ノ部ヲ設ケ適用ノ法條ハ遠ク明治ノ初年ニ溯リテ茲ニ之ヲ引用シ以テ法條ト其實例トノ關係ヲ瞭然タラシメ間々注意ノ部ヲ置キテ引用セル法令ノ現存廢滅改正及ヒ他ノ法律トノ關係ヲ示ス要ハ唯其判決實例ノ趣旨ヲ明ナラシムルニ在リ故ニ事實ハ繁テ省キ贅ヲ削リ專ラ法理ノ爭ニ關スル點ヲ洗出スルヲ期セリ

附錄裁判法訴訟法要論ハ行政裁判法ト訴訟法トヲ交互錯綜シテ理論的ニ之ヲ比較論述シ以テ法意ノ存スル所ニ法ノ相異ナル所ヲ明ナラシム加之行政訴訟ト訴訟トノ手續及書式ヲ示シ大ニ實際家ノ便益ヲ計レリ

本書既ニ本年四月ヲ以テ其初刊ヲ發兌シ今般更ニ再版ニ附シ今ヤ製本出來セリ庶幾クハ陸續講求アランヲ期ス

豫告

石原友曉著

●適條 參照 日本行政裁判例 第三卷 (廿五年後半季分)

裁判例第三卷ハ附錄ヲ添ヘ當時必要ノ法令若クハ法令解説ヲ載セ明年二月ヲ以テ之

ヲ發兌ス本年中講求ノ豫約申込者ニ限り定價ノ二割ヲ減ス
但シ豫約金ヲ要セス出版ノ上現金ト引換送本ス

石原友曉著

●改正登記法解説

全 價 壹 冊
定 價 未 定

現行登記法ハ不備ナルモノナリ不完全ナルモノナリ惡漢ハ之ヲ奇貨トシテ頻ニ奸策ヲ逞フシ良民ハ之ニ頼リテ權利ノ保護ヲ完フスル能ハス是ニ於テ朝野共ニ其改正ヲ感スルヤ久シ其議案トナリ議會ニ登ル亦數回而テ未タ改正ノ運ニ到ラス衆庶ノ不幸ト謂フヘシ聞ク政府曩ニ改正取調委員ヲ置キ其調査ヲナサシメ今ヤ殆ト其終了ヲ告クルヲ以テ本年ハ必ス之ヲ政府案トシテ議會ニ提出セラルヘント思フニ其可決裁可ヲ觀ル遠キニアラサルヘシ著者亦斯法ノ改正ニ熱心ナルモノナリ夙ニ私ニ其取調ヲナシ或ハ之ヲ前年來提出ノ議案ニ鑑ミ實際ノ狀態ニ察シ他國ノ法律ニ徵シ大ニ研究スル所ノ資料ニ富メリ因テ當所ニ於テ著者ニ乞ヒ早晚改正法發布ノ時ニ際シ速ニ本書發行センヲ約セリ依テ之ヲ世上ノ君子ニ豫告シ頗ル定價ヲ廉ニシテ出版セントス希クハ偏ニ御愛讀アレヨ

但シ前法同様豫約申込者ニハ定價貳割引ニテ送本ス

68
5
2/7

行政裁判例編輯所
明法堂書林

岡本久治著

かね

定價十錢

郵税不要

本書ハ貨幣ニ關スルコトヲ簡易ニ説キタルモノニシテ世人富ハ貨幣ナリト信スルハ誤
認ナリト云フニ説キ始メ貨幣ノ起源ヨリ其制度沿革等ヲ述ヘ第七章ニ於テハ我國安
政開港ノ後小判ノ跡ヲ絶テタル理由ヲ説キ遂ニ我國現行ノ貨幣制度ニ及シ簡ニシテ
明凡ソ必要ノ件一トシテ漏スコトナシ故ニ商業家工業家農業者ハ勿論宗教家ニアレ教
育家ニアレ苟モ金錢ヲ得ント欲スルモノハ必讀スヘキノ良書也

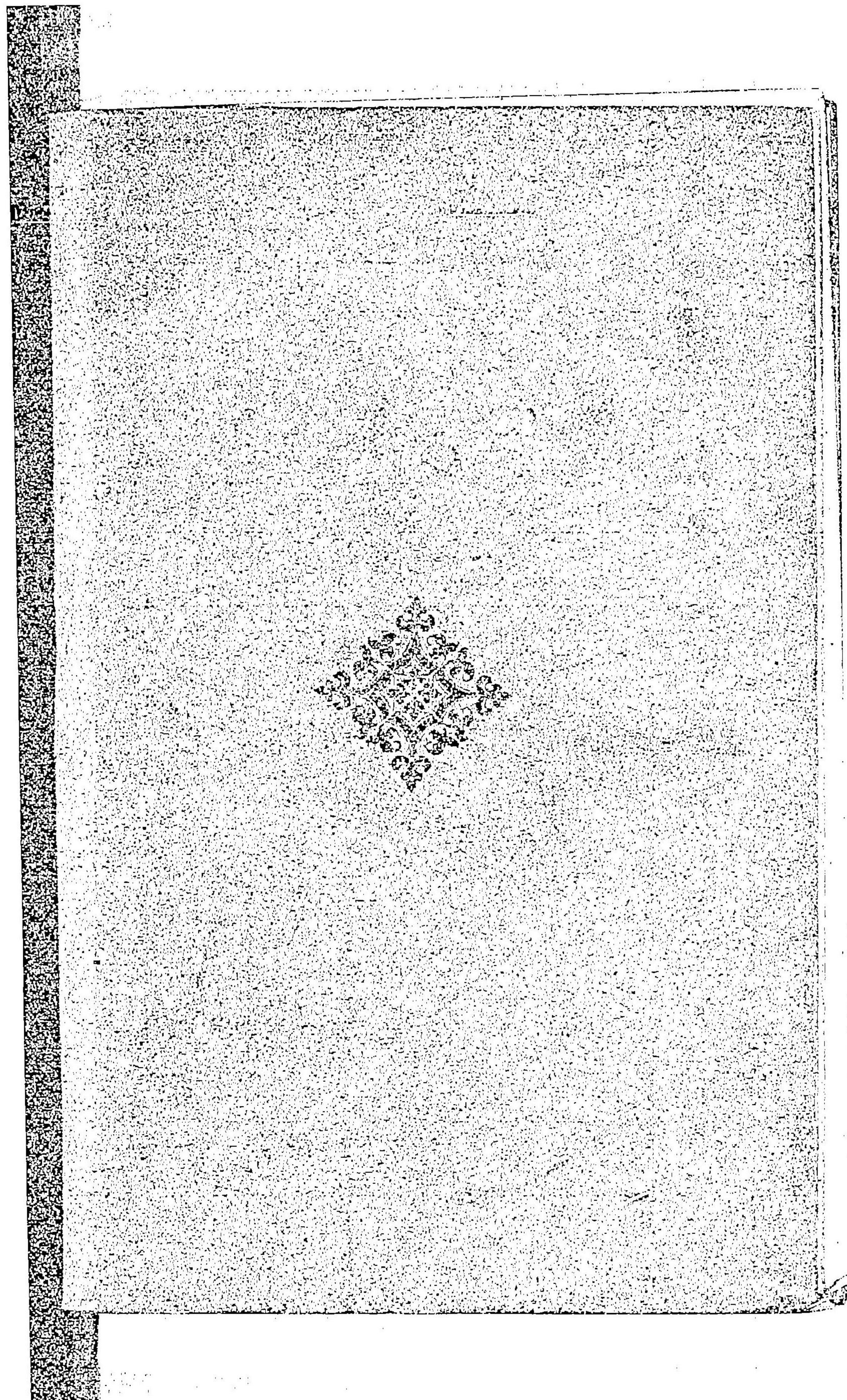
發行所

岡本書院

淺草區松葉町十六番地

發賣所

明法堂
丸善書店



68
217

卷續
照條

日本行政裁判例

附錄
山法規全書

第二卷

036490-000-1

68-217

日本行政裁判例 第二卷

行政裁判例編輯所

M25

BBR-0172

